

We Guard All

トップメッセージ | 高谷 康久

ネットセキュリティにおける
トップブランドへ

株主・投資家の皆様へ

E-G通信

2022年9月期

2021年10月1日～2022年9月30日

成長市場を的確に捉え、 引き続き増収増益を達成しました。

社会に不可欠なインフラとして、インターネットはますます拡大を続けています。当社は「We guard all」を掲げインターネットの安全を提供し成長し続けてきましたが、本年、サイバーセキュリティ分野で強力な新製品をリリースし、名実ともに総合ネットセキュリティ企業としての陣容が整いました。今期から当社のブランド確立に注力し、ネットセキュリティのトップ企業を目指して邁進してまいりますので、株主の皆様の一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



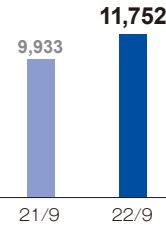
代表取締役社長
高谷 康久

業績ハイライト

売上高

11,752百万円

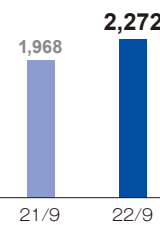
前期比 18.3% ▲



営業利益

2,272百万円

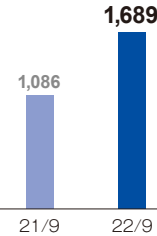
前期比 15.4% ▲



親会社株主に帰属する
当期純利益

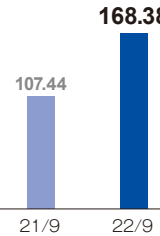
1,689百万円

前期比 55.5% ▲



1株当たり当期純利益

168.38円

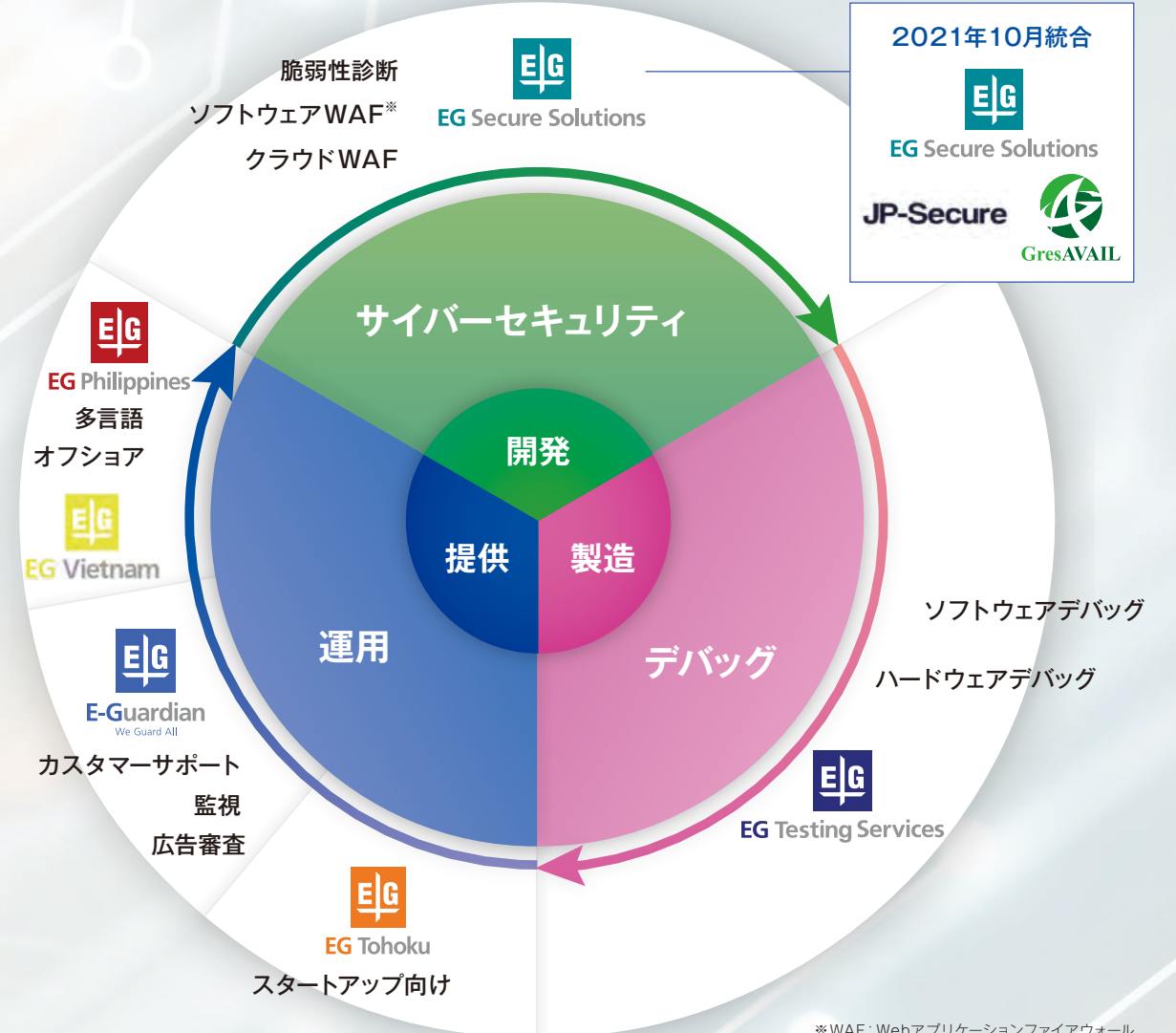


Point サイバーセキュリティ分野が伸長

2021年10月にグループシナジーの強化を目的とし、EGセキュアソリューションズ株式会社を存続会社とするサイバーセキュリティ関連子会社3社の統合を行い、WAF[※]及び脆弱性診断等のセキュリティサービスの拡販を推進しております。

[※]Web Application Firewallの略称。ウェブアプリケーションの脆弱性を悪用する攻撃を検出・防御し、ウェブサイトを保護するためのセキュリティ製品。

インターネットサービスを上流から下流まで支える セキュリティのワンストップサービス



[※]WAF: Webアプリケーションファイアウォール

クラウド型 WAF のリリースで、 総合ネットセキュリティ企業としての陣容が整いました。 トップ企業を目指して本格的なブランド確立の取り組みを開始します。

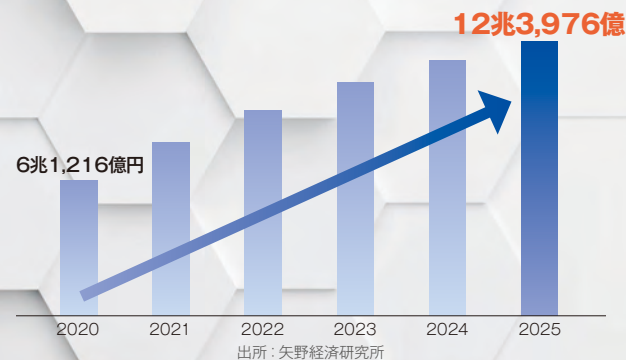
22年9月期通期の業績を どう評価されますか。

おかげさまで8期連続の2ケタ増収増益を達成することができました。セグメント別に見るとソーシャルサポート分野が大きく伸びました。21年9月期は動画監視が成長しましたが、22年9月期はフリーマーケットを含むEコマースやキャッシュレス決済が拡大したこと

に伴い、本人確認や加盟店審査の業務が拡大しました。アドプロセス分野も順調に拡大しましたが、その一方でゲームサポート分野が伸び悩みましたし、サイバーセキュリティ分野は微増にとどまりました。このようにセグメント的には好不調がありますが、「We Guard All」という当社スローガンが示すように、ネットセキュリティの広範な分野に展開しているため、セグメントごとの凸凹を吸収し、市場全体の拡大を長期継続的に取り込むことに成功したと考えています。

コード決済市場における 成長余地は大きい

コード決済市場規模推移



停滞したゲームサポート分野と微増だったサイバーセキュリティ分野への対策は。

ゲームサポート分野の減少は、国内でのソーシャルゲームのヒットタイトルの減少が大きな原因です。ソーシャルサポート分野が21年9月期に大幅増加しているので焦って対応する必要はありませんが、ゲーム制作会社に対してゲームサポート分野以外のデバッグやサイバーセキュリティ等のサービス提供、海外営業を強化することで停滞分をカバーしていきます。また将来性について最も期待の大きいサイバーセキュリティ分

野ですが、22年9月期は後に述べるようにクラウド型 WAF (Web Application Firewall) の開発に注力してマンパワーを投入した結果なので、今期以降はその成果を活かした伸びが実現できるものと確信しています。

■ 国内外のセンターの拡張が続いていますが。

大阪センターを増床、東京センターと仙台センターを拡張移転しました。また、子会社でデバッグを専門とするEGTS社が、メーカーの集中する東京八王子市にハードウェアのデバッグを専門とする八王子センターを新設しました。これらはどれも事業拡大に伴うものであるとともに、近い将来の受注増とスタッフ増を見越し

てあらかじめスペースを確保し、商機を着実に取り込むためでもあります。また子会社であるEGベトナム社のホーチミン拠点を拡張移転しました。ベトナムでは日本語習得者が増加していることもあり、日本向けの24時間オフショアサポート体制を構築することが可能になりました。ベトナムからは中国市場への展開も構想しています。

■ メタバースとNFT (Non-Fungible Token) への取り組みについて教えてください。

メタバースが話題になっていますが、すぐに大きな市場に拡大していく段階にはありません。当社としては、ゲームサポートで培ったノウハウの多くが転用でき

サイバーセキュリティ事業のグループ再編図

9月以前のグループ体制



脆弱性診断・コンサルティング
セキュリティ教育



クラウド型 WAF
開発・販売



ソフトウェア型
WAF 開発・販売

10月以降のグループ体制



脆弱性診断・コンサルティング
セキュリティ教育
クラウド型 WAF 開発・販売
ソフトウェア型 WAF 開発・販売

吸収合併

吸収合併

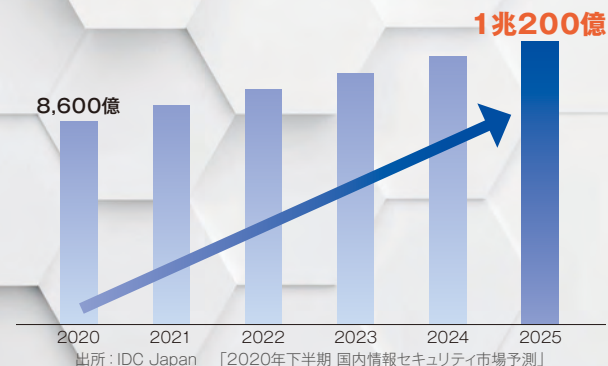
る分野であるため、クライアント企業のメタバース展開の管理・セキュリティ・盛り上げサポート等を提供できる体制を整えて市場拡大に備えています。替えが効かない唯一無二の暗号資産として注目されるNFTについても、キャッシュレス決済やEコマースでの個人認証や店舗認証のノウハウが転用できるので、市場が拡大すればいつでも対応できる体制を整えています。

クラウド型WAFリリースの意義について教えてください。

サイバーセキュリティ分野は最も将来性のある分野だと位置づけています。当社はこれまでソフトウェア型WAF「SiteGuard」を提供してきました。これは、すでに100万サイトに導入された実績のあるWAFです。

セキュリティ市場における成長余地は大きい

国内セキュリティサービス市場

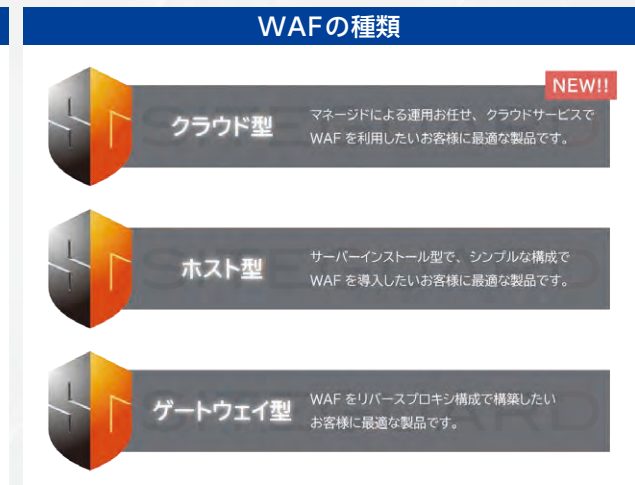
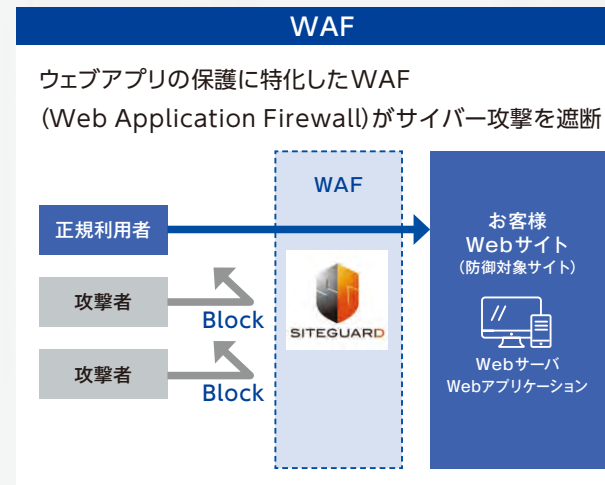


が、今年、新たにクラウド型WAFの開発を完了しリリースしました。これによって顧客企業はニーズに応じた選択肢が増えることになり、当社はさらに大きな競争力を持つこととなります。また、顧客企業内のすべてのネットワークとデバイスを24時間監視し、サイバー攻撃から守るSOC (Security Operations Center) サービスも今年4月から提供を開始しました。これらによって当社がカバーするネットセキュリティの領域は飛躍的に広がり、名実ともに総合ネットセキュリティ企業としての大きな一歩を踏み出したこととなります。

23年度9月期に向けた展望と取り組みを教えてください。

引き続き2ケタの増収増益を目指します。その上で、総合ネットセキュリティ企業としての陣容が大きく整ったことを踏まえて、今期はイー・ガーディアンとしてのブランド構築に大きく踏み出します。直接的な理由は、当社がカバーする領域が広がったために、顧客企業の担当部署も多岐にわたるようになり、当社の社会的認知度が営業活動にも重要になってきたからです。より大きな視点での目的は、優秀な人材の確保です。労働人口が縮小する日本で、当社が総合ネットセキュリティ分野でトップ企業を目指すためには優秀な人材確保以上の武器はありません。トップ企業へのチャレンジに共感してくれる優秀なスタッフをリクルートし人材育成を強化していきますが、そのためにも広告に投資して当社の認知度とブランド力を高めるための第一歩を今期に踏み出します。

クラウド型WAFをリリースし、サービスラインナップを拡充



投資家へのメッセージをお願いします。

今期を、総合ネットセキュリティ企業として本格的に出発する元年にしたいと考えています。クラウド型WAFやSOCをリリースした今を措いてそのタイミングはありません。この挑戦を通じて、さらに企業価値を高め、株主の皆さまに報いたいと考えていますので、どうぞご支援を賜りますようお願いいたします。



高谷 康久の経営哲学を解き明かす著書が日経BP社から好評発売中です。

就活やる気ゼロだった僕でも、
上場企業の社長になれた
(高谷 康久著 日経BP社刊)

代表取締役社長
高谷 康久



会社概要 (2022年9月30日現在)

商号	イー・ガーディアン株式会社 E-Guardian Inc.
代表者名	代表取締役社長 高谷 康久
設立	1998年5月
資本金	36,428万円
従業員数	連結2,441名(うち臨時従業員数2,053名)
本社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F TEL: 03-6205-8857 FAX: 03-6205-8858
関連会社	■ EGセキュアソリューションズ株式会社 ■ EGテストングサービス株式会社 ■ E-Guardian Philippines Inc. ■ E-Guardian Vietnam Co.,Ltd. ■ イー・ガーディアン東北株式会社

株式情報 (2022年9月30日現在)

株式の状況

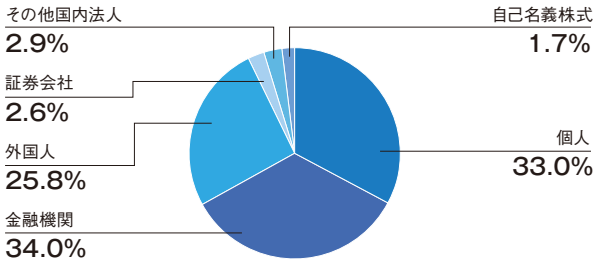
発行可能株式総数	32,400,000株
発行済株式の総数 [うち自己株式180,828株]	10,405,800株
株主数	7,370名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,202,400	21.54
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	961,080	9.40
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	804,425	7.87
高谷 康久	661,904	6.47
CEP LUX-ORBIS SICAV	622,300	6.09
野村信託銀行株式会社 (投信口)	205,200	2.01
J. P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	178,400	1.74
ザバングオブニューヨークメロン 140042	163,523	1.60
上田八木短資株式会社	142,900	1.40
溝辺 裕	112,350	1.10

(注)1.当社は、自己株式を180,828株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。また、持株比率は小数点第2位未満を四捨五入して表示しております。
3.自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式(191,780株)は含まれておりません。

所有者別株式数の分布状況



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月に開催
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告とする。 やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載URL
<https://kmasterplus.pronexus.co.jp/main/corp/6/0/6050/index.html>



イー・ガーディアン株式会社

<https://www.e-guardian.co.jp/>

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F
TEL:03-6205-8857 FAX:03-6205-8858

